

【46釈 文】中山道倉賀野宿飯売女引き渡し証文

(天保三年：一八三二)

入置申一札之事

一倉賀野宿旅籠屋金十郎殿抱飯売

女とせ申^(ママ)与申女子、貴殿懇望二付、此度

金三十拾五兩二而貰請、貴殿江相渡可レ申筈二

対談仕、唯今、為二手附一金五兩、慥二我等方江

受取申候、残而金三十兩御渡被レ成候節、急

度女子貰受相渡可レ申候、其節二至、聊

違乱無二御座一候、為レ念一札、仍而如レ件

伊香保村

天保三辰年三月十九日 源 吉^印

同所

清 蔵^印

吾妻本宿

政五郎殿

【46読み下し文】

入れ置き申す一札の事

一倉賀野宿旅籠(はたご)屋金十郎殿抱え飯売リ

女とせと申す女子、貴殿懇望に付、此の度

金三十拾五兩にて貰い請け、貴殿へ相渡し申すべき筈(はず)に

対談仕り、唯今、手付けとして金五兩、慥(たしか)に我等方へ

受け取り申し候、残つて金三十兩御渡し成られ候節、急

度(きつと)女子貰い受け相渡し申すべく候、其の節に至り、

聊(いささか)も違乱御座無く候、念の為(ため)一札、仍(よつ)て

件(くだん)の如し

伊香保村

天保三辰年三月十九日 源 吉^印

同所

清 蔵^印

吾妻本宿

政五郎殿